

音楽科学習指導案

令和5年6月1日(木) 学習指導Ⅰ 第1学年1組(第1音楽室) 指導者 稲森 稚明
森下 知可

【題材】身の回りの音をたくさん集めよう A表現(3) ア(ア), ウ(ア)

考察	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
育成を目指す資質能力	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの様々な音の特徴についての知識 身の回りの音を擬音に表して, 選んだりつなげたりして表現する技能 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの音から表した擬音を, 選んだり, つなげたりする際に, 場面に応じて, 音色を工夫して表現することについて思いをもつ力 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの様々な音に興味をもち, 友達と協力して音探しや擬音をつなげる活動を楽しもうとする態度
子どもの実態	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の中にある様子や音の表し方について気付き, 場面を想像しながら歌うことができる。 身の回りの音を, 様々な擬音で表した経験はあるが, 音楽をつくる経験はなく, 擬音を選んだりつなげたりする方法が分からない子がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子に合わせて表現する際に, 声の強さや速さを工夫することについて思いをもってきている。 自分の表したい思いと擬音とを結び付けて表現する経験は少なく, 思いに合う表現を考えて, 音色を工夫しながら音遊びをすることが難しい子もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子を歌で表すことに興味をもち, 友達と一緒に楽しく歌うことができる。 身の回りの音に対してあまり関心をもてていない子や, 音探しや擬音をつなげるといった初めての音楽活動に対して戸惑ってしまう子もいる。
価値	<p>車の音, 風の音, 料理や洗濯の音など, 子どもたちの身の回りには様々な音があふれている。生活をしている中で聞こえてくるそれらの音に耳を澄ましたり, 聞こえてきた音を擬音にして自分の声で表したりすることで, それぞれの音の違いや面白さに気付く。また, 見つけた音を擬音にし, 思いを基にペアで4つの擬音を選んでつなげ, 声に出して表現する音遊びをする活動を行うことは, これからの音楽づくりの活動の素地となる。さらに, 表したい場面を伝えるために, 元気な感じや楽しんでいる感じ等を表そうと工夫する中で, 自然と音色を使った表現ができるようになり, 様子や雰囲気を表すための音色の大切さを実感することにつながっていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校や家庭で撮影した映像や, 録音した音を視聴し, 擬音に表して伝えることにより, 音色や音の感じ方, 聞こえ方の違いに気付くことができ, 身の回りの音の特徴について知ることができる。また, ロイロノート上で, 集めた擬音をカードにすることにより, 選んだり, つなげたりすることが容易になり, 即興的に音楽をつくることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 擬音を基に「どこで/どんな感じに/何をしている」場面を表しているか, 友達と当て合う機会を設定することで, 擬音で表したい場面を共有することができる。そして, 場面が具体化されることにより, 擬音を選んだりつなげたりする際に, 場面に応じて, 音色を変えながら表現することについての思いをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校庭や特別教室へ実際に行ったり, 家庭で聞こえてくる音を見付けたりしながら音を探る機会を設定することで, 身の回りの様々な音に気付き, 興味をもつことができる。また, 自分が見付けてきた擬音を友達と一緒につなげて表現することで, 音楽で遊ぶ楽しさを実感することができる。
見方・考え方	身の回りの音に対する感性を働かせ, それらのよさや面白さを捉え, 自己のイメージや感情, 生活と結び付けて音楽をつくること。		
今後の学習	1年「様子を思い浮かべよう」において, 曲の場面の様子を思い浮かべながら音色を工夫して歌ったり演奏したりする学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	身の回りの様々な音の特徴や面白さに気付き、擬音をつなげて遊びながら、身の回りの音に興味をもつことができる。		
評価 規準	(①知・技) 身の回りの様々な音の特徴に気付き、身の回りの音を擬音に表して、選んだりつなげたりして表現している。 (②思・判・表) 身の回りの音から表した擬音を、選んだり、つなげたりする際に、場面に応じて、音色を工夫して表現することについて思いをもっている。 (③主体的態度) 身の回りの音に興味をもち、友達と協力して探した音を基に、身の回りの音を擬音に表したり、つなげたりする音遊びの活動を楽しもうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	事前	○校庭や特別教室から聞こえてくる音を、擬音に表して遊ぶ。	○身の回りにある音に気付けるように、体育科の外活動や生活科の学校探検で聞こえてきた音を、擬音で表して遊ぶ機会を設定する。
	Ⅰ	○既習曲を歌ったり、身の回りの音を使ったクイズで遊んだりして、学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> — 学習のめあて — 身の回りで集めた音をつなげて、音楽をつくって遊ぼう </div>	○身の回りにある様々な音を、音色を工夫しながら表現する面白さに気付けるように、音色の工夫を考えた既習曲を歌ったり、擬音を聴いて、擬音が表している場面を当てたりする音遊びの機会を設定する。
	常時	○学校や家庭で音探しをする。	○見付けてきた身の回りの音や経験を共有できるように、録画や録音して記録する機会を設定する。
追求する	Ⅰ	○音探しで見付けた擬音を学級全体でつなげて遊び、表したい場面をペアで考える。	○友達と経験や感情を共有し、場面についての思いをもつ手掛かりとなるように、記録した映像や音声を擬音に表しながら、音の聞こえてきた場所や特徴を模造紙にまとめる機会を設定する。
	Ⅰ	○ペアで表したい場面に合う擬音をつなげて音遊びをする。(本時)	○表したい場面についての思いが表現できているかを評価したり、擬音が思いに合っているかを判断したりできるように、「どんな感じに」「何をしている」の実現度という視点を提示する。
生まとめる・	Ⅰ	○表したい場面に合わせてつなげて作った音楽を、紹介し合う。	○身の回りにある様々な音で、自分たちの表したい思いを伝えることができたことを実感できるように、作った音楽を伝え、表した場面を当て合う機会を設定する。
			◇身の回りの音を擬音で表すことや音楽をつくることに興味をもち、擬音から想像した場面を答えたり問題を出したりしている。 <行動・発言③> ◇表したい場面について、自分の経験や感情と結び付けながら、工夫して表すことについて思いをもち、発言している。 <発言②> ◇音色を工夫しながら、擬音を選んだりつなげたりして思いを表現している。 <ロイロノート・表現②>
			◇身の回りの音や、音を表す様々な擬音のよさや面白さを実感し、記述したり発言したりしている。 <記述・発言①②③>

本時の学習（3／4時間目）

ねらい ペアで表したい場面を表現できるように、音探しをして見付けた身の回りの音を表す擬音を選んだり、つなげたりして音遊びをする活動を通して、思いに合った音楽を、音色を工夫しながらつくることができる。

評価項目 音色を工夫しながら、擬音を選んだりつなげたりして思いを表現している。

<ロイロノート・表現②>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>・みんなが見付けてきた音をつなげたら、学校や家の場面を表せることが分かったね。見付けてきた音をつなげて、私たちのペアで「キッチンで、お母さんが急いで料理をしている」場面を表してみたいな。友達に伝わるように、音の感じも工夫したいね。 (目的意識)</p> <p>めあて：音のつなげ方や声の感じをいろいろ変えながら、場面を表そう</p>	<p>○音色を工夫しながら、ペアで表したい場面に合う擬音を選んだりつなげたりして音遊びをするという見通しをもてるように、前時に学級全体で音遊びをしながら考えた、表したい場面を問いかける。</p> <p>○表したい場面に合った表現をしたいという思いをもてるように、「どんな感じに」「何をしている」の視点を提示し、場面を説明するよう促す。</p>
<p>2 思いに合う擬音を選び、つなげ方や音色の工夫を考える。</p> <p>・お母さんが料理をするときに聞こえてくる音を使って、「とんとん・ぐつぐつ・とんとん・ぐつぐつ」はどうか。</p> <p>・撮影してきた動画の中で聞こえてきた、ハンバーグを焼いている「じゅうじゅう」を使うのはどうか。ペアの友達が言うように、水を使っているから「じゃあじゃあ」も使って、「じゃあじゃあ・とんとん・じゅうじゅう・ぐつぐつ」もいいね。</p> <p>・今つくった音楽はキッチンで料理をしていることは伝わりそうだね。でも、急いでいる感じは伝わらないかな。</p> <p>・どうしたら伝わるのか分からないね。友達のペアの音楽を聴いてみたら、元気な感じを出すために大きな声で表していたね。『ぶんぶんぶん』のときに急いで飛ぶ蜂を表すために速い感じで歌ったね。それを使って急いでいる様子を表せないかな。</p> <p>・少し速めの急いでいる感じの声で、つくった音楽を表してみたら、表したい場面が表現できたと思うよ。友達にも「キッチンで急いで料理をしている場面」だと分かると言ってもらえたよ。</p> <p>・いろいろなつなげ方や声の出し方を試しながら、私たちの表したい場面を声で表せるようになったね。選ぶ音を変えたり声の感じを変えたりすると雰囲気が変わって面白いね。 (目的を達成した意識)</p> <p>3 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>・私たちの表したい場面が声で表現できて嬉しいな。友達に聴いてもらって、場面を当ててもらえるかな。友達の考えた音楽も聴いてみたいな。</p>	<p>○集めた擬音の中から、使いたい擬音を選んだり、並び替えたりして音をつなげられるように、模造紙に集めた擬音をロイロノート上でカード化して配付し、思いに合う擬音をペアで選ぶよう促す。</p> <p>○声に出して表現することを繰り返しながら、思いに合う擬音のつなげ方を見付けられるように、擬音カードを動かし、選んだ擬音をつなげ直したり、新たな擬音を選んだりしながら、ペアで表現を試すよう促す。</p> <p>○自分たちの表現で思いを表せているかを判断できるように、「何をしている」「どんな感じに」の実現度を話し合うよう伝える。</p> <p>○表現の工夫が思い浮かばなくなったときに、友達の表現を真似したり参考にしたりできるように、擬音のつなげ方や声の音色を工夫しているペアの表現を学級全体に紹介し、面白いと感じたことを問いかける。</p> <p>○音遊びでできた音楽が、最初にもった思いに合っているか評価し合えるように、「どこで、どんな感じに、何をしている」の視点で、他のペアと聴き合うよう促す。</p> <p>○自分たちの思いが表現できたことを実感できるように、次時で友達に聴いてもらう音楽を声で表現した後、思いの実現度を問いかける。</p> <p>○身の回りの音を使って音遊びをした面白さを実感できるように、場面の様子を想像し、実際の音を思い浮かべながら音遊びでできたことを称賛する。</p>